



令和4年11月16日

草津市議会  
議長 中嶋 昭雄 様

草津市議会会派 公明党  
会長 西村 隆行  
草津市議会会派 チャレンジくさつ  
会長 八木 良人

会派研修会結果について、下記の通り報告書を提出いたします。

記

1. 日程 令和4年11月14日(月)～ 11月15日(火)
2. 研修内容
  - 視察 黒部市社会福祉協議会
    - ・「5GOALES For 黒部」について
    - ・人口減少高齢化社会における社会福祉協議会の取り組み
  - 視察 総曲輪レガートスクウェア(富山市)
    - ・乳幼児から高齢者まで地域の人が利用する複合型施設について PPP(公民)連携事業により整備されている。
3. 参加者 草津市議会会派 公明党 西村 隆行、西垣 和美  
草津市議会会派 チャレンジくさつ 八木 良人、石本 恵津子
4. 報告書・資料 別紙のとおり

# 会派視察報告書

- 日時 ・ 2022年11月15日～16日
- 参加者 ・ チャレンジくさつ 石本恵津子・八木良人  
・ 公明党 西垣和美・西村隆行
- 目的地 ・ 富山県黒部市 黒部市社会福祉協議会  
・ 富山県富山市 総曲輪レガートスクウェア

## 11月15日・黒部市社会福祉協議会視察報告

### 視察目的について

人口減少や少子高齢化がすすむなか、地域福祉の重要性は高まってきています。特に最近では、コロナ禍による生活困窮や地域の絆の弱体化など、様々な課題に直面しています

その意味から、市社会福祉協議会の担う役割はますます重要になっています。

今回の視察では、人口減少・高齢化など地域が抱える課題にICTを積極的に活用し、数々の先進的取り組みが注目されている黒部市社会福祉協議会の実践を学び草津市における福祉活動の実践にいかすことを目的としています。

### 視察内容の概要

社会福祉法人黒部市社会福祉協議会総務課経営戦略係の小柴徳明氏から、「福祉分野のデジタル活用・DX推進 失敗と成功のポイント」と「福祉版移動シェアサービス SW-MaaS (Social welfare Mobility as a service) 地域での持続可能な福祉サービスの提供に向けて」について講義をいただき、その後質疑応答というかたちで研修を進めました。



### 研修テーマ1・福祉分野のデジタル活用・DX推進

人口減少・少子高齢化・コロナ禍によって、福祉の大切さが増していくなか、福祉において持続可能・市民参加ということが大きな課題となっています。過去と同じやり方では、もはや持続可能は不可能であり、デジタルを活用した新たな福祉を創っていく必要があります。

働と経験に頼っていたこれまでの福祉政策も、EBPM（根拠に基づく政策立案）を取り入れて、いままでの経験で培われた知恵とEBPMを両輪でまわすことが、これからの福祉に大事なことだと考えられています。

運営においては、EBPMに基づく戦略が必要ということで、黒部市社協では経営戦略係を創設して10歩先を見据えた運営が行われ、「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくりの推進」が実践されています。

10歩先を見据えて、3年間で福祉分野をSmart化（Smartふくし）することに取り組み、福祉DXをキーワードに活動をされています。具体的には、3年間で4つのフェーズに位置づけて、フェーズ1・福祉のネットワーク化、フェーズ2・デジタル化、フェーズ3・DX、フェーズ4・全体最適化（持続可能な地域体制整備）と段階を追ってしっかりと10歩先を見据えた計画をつくっておられます。また、小柴氏は、Smartふくし実現のために、広域での活動ができるように「一般社団法人・SMARTふくしラボ」という団体を立ち上げて、福祉の現場でICT利活用やDXをすすめておられます。

## 考察

今回の視察では、今までの社会福祉協議会という既成概念を覆すような先進的な取り組みを学ぶことができました。そして、先進的取り組みを行いながら、地域の力を引き出して、持続可能な福祉を実現するためにデジタルを活用して、新たな挑戦を続ける社協の姿を見ることができました。このような取り組みや考え方は、福祉だけではなく、行政全般にもあてはまることであり、今回黒部市社協で学んだことを草津市行政にも活かせるように取り組んでいくことが大事だと考えます。



## 研修テーマ2・SW-MaaS・福祉版移動シェアサービス

スマートふくしの実践例として、福祉版移動シェアサービス・SW-MaaSは、2022年5月から実証実験がスタートされました。福祉版移動シェアサービスとは、社会福祉が持つ移動資源（リソース）を共有して使用（シェア）するサービスです。実証実験の目的は、市内の各福祉施設が日常的に行っている送迎サービスの中で利用者の移動のしくみを共有（シェア）することで、どのようなメリットが生まれるかを検証し、それにより福祉サービス、労働改善、車両コスト等にどのような変化がみられるか、その価値を見出すために実施されるものです。

## 考察

この取り組みは全国でも初めての取り組みであり、トヨタモビリティ基金助成事業として実施され、現場の声と民間企業のノウハウを活かした取り組みです。各法人の移動にかかる負担を減らすことにつながれば、福祉法人の地域での持続可能な福祉サービスの提供につながるとともに、地域の方の外出の機会も増やすことができ、地域の健康維持にもつながると思います。実証実験の今後の状況は、確認していきたいと思います。草津市においても、この取り組みは活かせると思われます。

## 参考

### 小柴徳明氏について

中京大学体育学部卒業後、富山立富山学園（児童自立支援施設）で保健体育非常勤講師。2003年黒部市社会福祉協議会に入社。ボランティアコーディネーター、地域福祉、民生委員などの担当を経て現在は総務課に配属。

赤い羽根共同募金改革や広報改革プロジェクト、近隣社協との連携事業などを担当。2015年に新設した経営戦略係として法人の基盤強化、経営の中長期ビジョンの策定、シンクタンク事業の立ち上げなどに取り組む。地域福祉分野におけるICT利活用研究、社会参加や地域に見える化などが関心ごと。国立研究開発法人 情報通信研究機構（NICT）でソーシャルICTシステム研究室の協力研究員も務めている。

好きな言葉は「やってみなけりゃ分からない」。好きな飲み物は「カシスウーロン」。

○社会福祉法人黒部市社会福祉協議会 総務課長補佐 経営戦略係長

○国立研究開発法人 情報通信研究機構（NICT） ソーシャルICTシステム研究室 協力研究員

○一般社団法人smartふくしラボ 理事・研究員

○特定非営利活動法人 明日育【あすいく】 理事

○一般財団法人CSOネットワーク リサーチフェロー

○OCI-labo（community Indicators labo） 研究メンバー

一般社団法人SMARTふくしラボ <https://smartfukushilab.org/>

SW-MaaSについて <https://smartfukushilab.org/experiment/social-welfare-maas/>

### 添付資料

黒部市社会福祉協議会での取り組み（トヨタモビリティ基金助成事業）

福祉分野のデジタル活用・DX推進「失敗と成功のポイント」